

令和2年度 第1回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 令和2年8月5日(火)
14:00～16:00
場 所 志摩市役所4階 401・402会議室

出席者(順不同・敬称略)

- (1) 審議会委員(12名)
牧谷拓、大西晶、内田清隆、岩崎恭彦(会長)、山本太、鈴木正和、清水久史、
尾間正美、高木俊宏、東川清加、磯和範好、井上摩紀
- (2) 事務局(4名) 東桂一、西山頭一郎、中村紋子、米奥宏規

傍聴者…4名

事項書1. あいさつ

【岩崎会長】

本年3月に、第2期の総合戦略が策定されました。第2期の方針については、新型コロナウイルスの影響で会議を開催することができなかつたため、事務局と協議をし、これまでの皆さまのご意見を踏まえながら更新させていただきました。

本日は、マスク着用等、感染症対策をしながらの開催となりましたが、第1期の総合戦略の総括ということで、皆さんにご熱心に議論いただきたいと思います。

【事務局】

傍聴席を設置し公開していることや撮影や録音等の了承について確認。

委員16名中12の出席により会議が成立していることを報告。(志摩市地方創生審議会条例第5条第3項)

志摩市地方創生審議会条例第5条第2項の規定に基づき、議事進行を岩崎恭彦会長に依頼。

事項書2. 議事(1) 令和元年度実績報告について

【岩崎会長】

事務局より資料確認を求めます。

[事務局説明]

資料1 志摩市創生総合戦略に記載した【具体的な施策】令和元年度実績報告

資料2 令和元年度志摩市総合戦略【具体的な施策】KPI検証シート

資料3 第1期志摩市総合戦略に係る評価(総括)

資料4 まち・ひと・しごと創生基本方針2020について

【岩崎会長】

事項の1番目、令和元年度実績報告について事務局からの説明を求めます。

《政策分野1「ひとの育成」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

この分野について、質問等はございませんか。

【高木委員】

政策 NO. 1－3 の頑張る市民を応援する事業の志摩市資格取得支援事業補助金及び志摩市資格取得奨励金の助成金額はいくらですか。

【事務局】

資格取得支援事業補助金については、資格取得に要した費用の20%、1人上限5万円、資格取得奨励金については、資格の種類に応じて金額が異なり、1万円から5万円が奨励金の額となっています。

【高木委員】

この制度は、国の補助金と重複して受け取ることが可能ですか。

【事務局】

重複して受け取るとはできません。

【高木委員】

国の補助金も20%が対象となっているので、利用者は国か市どちらかを選択するということですか。

【事務局】

どちらか選択していただくことになります。

【鈴木委員】

施策 No. 1－1 中学生と高校生の地方創生参画推進事業で、アンケートを実施しているということですが、アンケートを実施しているのであれば、何をもちこの地域で暮らしていきたいのか等、どこまで踏み込んで行っているのでしょうか。

また、施策 No. 1－5 二十歳からの健康貯蓄事業では、どういった場でアンケートを実施しているのかわからないが、208人という人数ではなく、母集団をもっと大きくできなかったのですか。

【事務局】

中学生のアンケートについては、地方創生に関する授業を行った際に、中学生がどのような意識をもっているかについて実施しています。アンケート結果では、志摩市に残りたいという理由として、「生まれ育ったまちだから」という理由が一番多い。こういったアンケート通じてどういったことがポイントなのかということ进行分析し、地方創生の施策へと生かしていきたいと思っています。

二十歳からの健康貯蓄事業のアンケートについては、対象人数については、3,517人に対し

て定員が270人、受診者が208人となっていますが、これは、対象のなかからその年度に実施する年齢層を絞り定員を設定しているためです。アンケートの実施方法については、担当課へも伝え、検討していきたいと思えます。

【岩崎会長】

先ほどの中学生のアンケートについてですが、高校生のアンケートに関しては、KPIの達成状況について、県が実施するアンケートを使用しており、市が独自でアンケートを実施しているわけではないと思えますが、中学生については、実際に学校へ出向いていった際に市独自でもう少し踏み込んだアンケートを実施しているとのことでした。

委員の質問では、将来、このまちで暮らしたいという数字がこれだけあって、さらに踏み込むと、どういう仕事をして、この地域でどう暮らしていきたいのかというところまでさらに踏み込んでみると、地方創生に活かすようなアンケートが取れるのではないかという意見だったと思えます。

建設的な意見であると思えますので、今後の制度設計に生かしていただきたいと思えます。

【東川委員】

施策 No. 1－4 地域とのつながりによる 県立高校の魅力向上事業の「地域と高校で魅力向上のための対策が検討されている」という KPI だが、検討されているかどうか KPI の判断基準となっているのですか。

【事務局】

検討しているかどうかということが、KPI の判断基準となっています。

【東川委員】

実績報告シートの裏面は、表面に記載している施策の実績内容となっていますが、両校の生徒が活躍する機会については記載があるものの、検討についての内容の記載がありません。検討も KPI となっているのであれば、その内容について記載するべきではないでしょうか。

また、検討することだけが地方創生ではなく、検討したうえで、何をして地方創生につなげるのか、どのように地域づくりに取り込んでいくかが最終の着地点であると思えますので、検討する以上、それがつなげられるような検討内容だったのかを実績報告に入れてもらえると具体的な内容がよくわかると思えます。

【事務局】

この事業については、地域と市内の高校のつながりを強化して、地域を知る機会と地域で活躍する機会を在校生に提供するとともに、地域が高校について知る機会も創出することで、地域の高校の魅力を向上させ、卒業しても地域のために何かをしたいと想ってくれる若者を育てることを目的としており、機会の提供、若者を育てるということで検討されているかどうかを KPI として設定しております。

今回の実績報告では、その内容が見えにくいとのことなので、この点については、工夫して示していきたいと思えます。

【岩崎会長】

報告の仕方を工夫してほしいとの意見だと思いますが、成果指標をアウトプットで取るのか、アウトカムで取るのかという議論があり、会議をやったかどうかについてを指標にしていると、それが地方創生にどうつながったのか見えないという、指標そのものについての意見だとも思いますので、KPIをどのような基準で設定していったらいいのかについても検討を進めていただきたいと思います。

【高木委員】

施策 No. 1－4のKPI、インターンとして生徒を受け入れてくれる事業者の数について、令和元年度50社ということで、評価のところで、生徒がインターンシップを実施することにより、地元企業等への就業する機会の創出となったとのことですが、地域活性化のためには、UIJターン、あるいは、市外の方の移住があるのですが、一番大事なのは、地域の子どもたちが長く住むということだと思いますが、インターンシップに行った生徒がどのくらい地元企業へ就職したのでしょうか。

【事務局】

インターンシップについては、2年生を対象に将来を固める前に志摩市の企業を知ってもらおうということで行っており、その後の就職先までは把握しておりません。

ただ、3年生については、数は把握していないものの、地元企業へ就職している実績があると聞いております。

【岩崎会長】

就職先については、個人情報なので、どこまで把握できるかという問題はあると思いますが、取っていただけるなら有益な数字かと思いますので、検討していただきたいと思います。

【岩崎会長】

山本委員にお聞きしたいのですが、従来、地方創生では中学生、高校生を主たるターゲットにしてきていて、第2期から小学校もターゲットに含めようという趣旨で、総合戦略の改定をしたというふうに記憶しているのですが、もしこれまでの志摩市の地方創生をご覧になってお気づきになったこと、感じられたことがあればお聞かせいただければと思います。

【山本委員】

やはり小学校の頃から地元の産業など体験学習で学ぶというのは大変有意義なことだと思いますし、また小学校の学習内容としてもそういう部分もありますので、いろいろな職種など、やっていただける機会を設けていただけるのは期待したいところです。

【岩崎会長】

またご助言等いただければと思います。

《政策分野2「ひとの確保」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

この分野について、質問等はございませんか。

【清水委員】

施策 No. 2－2 移住しやすい志摩づくり事業ですが、メールで日時を問わず問い合わせができるということで、一見便利なようで、実績がないとのことで、何かしら理由があるのではないのでしょうか。

せっかく支援していただける人がこれだけ増えてきているし、新型コロナウイルス感染症の影響もあるので、今後、移住を考える方が増えてくるかと思しますので、何かしらここで対策をして、一人でも多く移住をしたいという方が出てくるようになればいいかと思します。

【事務局】

移住者の方へご協力いただいて、こういった支援体制を取っていますが、メールでの問い合わせはあるものの、ここの部分から入ってきていない状況です。

このサイトでは、移住者の方が移住する際にどのように感じたかを、Q&Aのような形で「よくある質問に対する移住者の体験談」として掲載していますが、移住を検討している方へ、移住者の生の声を伝えたいという思いがありますので、引き続き、移住へつながるよう方法については検討していきます。

【大西委員】

全体にも関連することですが、例えば施策 NO. 2－3 の水産業の担い手受け入れ推進事業について、実際2名の方が就業中ということで、経験談であるとか、そこで出てきた課題などをフィードバックする仕組みは活用されているのでしょうか。他の施策では、アンケートを実施されて、うまくいかなかったところなどをフィードバックされていますが、そういうところはあるのでしょうか。

【事務局】

水産業の担い手受け入れ推進事業についてですが、現在、SNSによる情報発信を検討しております。経験談などの生の声について情報発信をしていきたいと思っております。その他の方法につきましても、今後、工夫してやっていきたいと思します。

【岩崎会長】

個々の事業の成果や反省をどうやって地方創生に活かしていくかというのは、総合政策課の担当かと思しますので、個々の事業と地方創生との結び付け方について、委員のご意見を参考にさせていただきたいと思します。

【委員】

施策 No. 2－7 若者世代の移住促進事業について、家賃補助の制度を利用された方は、この制度があるから移住をしたのか、移住をした後にこの制度を知って利用されたのか、どちらの人が多いの

ですか。

【事務局】

家賃の補助につきましては、若者や子育て世帯の移住者に対し、市が定める一定の条件を満たした場合、家賃の2分の1を移住後1年間、一次産業の方には3年間、補助している制度でございます。

制度につきましては、志摩市の移住支援策として、その他の制度と合わせまして情報発信をしており、移住を検討されている方へもご案内しております。

利用の仕方としまして、移住後、収入が不安定な時期に制度を利用させていただいて、移住策というよりは定住していただくためにといった側面が多いかと思えます。

【鈴木委員】

施策 No. 2－4 の IJU（移住）ターン促進のための奨学金返済補助事業についてですが、こちらにつきましては、ぜひ継続してやっていただきたいと思えます。

予算が必要な事業だと理解はしていますが、私どもの会社でも、奨学金の返済が負担になっているという声を聞きますので、市で補助をしていただいて、若者の定着を図っていただきたいと思えます。

【事務局】

この制度は、長く続けていく方が効果があると思っておりますので、継続して実施できるよう努めていきます。

また、この制度については、今年度から補助金交付者へアンケート調査を実施しておりまして、制度の効果を図るとともに、制度のブラッシュアップも図っていきたく考えています。

【尾間委員】

いなべ市が、空き家の募集について電車の中吊り広告で、面白い広告を掲載していました。

インターネットなどを利用するのもいいが、そういった攻める広告、効果的な部分へピンポイントで予算を投じていくということも面白い試みではないかと思えます。

【事務局】

情報発信には予算も掛かりますし、効果がないものをやっても意味がありませんので、他市の事例についても情報収集しまして、効果的な方法を検討していきたくと思えます。

《政策分野3「まちの発見」について》

[事務局説明]

【磯和委員】

施策 No. 3 くらい志摩びと紹介事業ですが、広報紙を市民の皆さんに読んでいただけていないという課題があると思うのですが、こういう市民を紹介する企画というのは、非常に魅力的で、その号だけでも見てみようかといったそういったことを向上させる効果があります。数字だけの難しいページが多いのが実状であると思えますので、こういったことをこれからも続けていただきたいと

思います。出来る限り市民を登場させるという形の広報作り、問題提起できる広報作りを続けていただけたらと思います。

実績も上がってきていると思いますので、これからも頑張っていたきたい。

【事務局】

広報紙は、行政からお知らせが多いというのが実情ですが、市民の皆さんに身近なことも掲載して、市民に親しみやすい広報作りに努めていきたいと思います。

【東川委員】

直接、この施策に関係するわけではないですが、番組に関わる立場として補足させていただきます。平成31年3月1日から15日までに放送されました行政番組で、志摩消防さんを取り上げた「ファイヤーマン24時」という番組を制作したのですが、YouTubeの再生回数が、志摩市が配信している番組の中で断トツの32万回という再生回数となり、志摩消防の方たちが近隣の消防署から声を掛けられるくらい、番組への反響が大きかった。新たなまちの発見というわけではないですが、広報活動が地域で働く人の魅力を発見し、働く人のモチベーションにつながっているものとして、手ごたえがあった番組となりました。

また、移住PR動画も制作していますが、こちらも放送は終わってしまして、YouTubeで配信していますが、これも7,000回くらい再生がありまして、動画を見て、移住につながったという事例は把握してはいませんが、再生回数から、志摩市の広報力というのは一定の評価できる部分があるのではないかと実感しています。

【事務局】

番組については、制作サイドの努力もあるかとは思いますが、出演していただいた方のモチベーションにもつながるといことで、今後も継続して効果が出るように頑張っていきたいと思います。

《政策分野4「しごとの強化」について》

[事務局説明]

【内田委員】

施策No.4-7御食国食文化展開事業についてですが、御食国というのは、この地域にとって非常に重要なキーワードで、期待している事業ではあるんですが、評価を見させていただくと、戦略についてまだ構築ができていないとか、コロナの影響もあると思いますが、成果があまり出ていないところもあります。成果が見えにくいとか、これからどうしていくかということが見えにくい結果になってしまして、今後、この事業をどのように展開していくのかというのをよくよく検討していただいた方がいいのではないのでしょうか。

【事務局】

この施策につきましては、御食国ということで、志摩市では力を入れていくべき部分だと思っています。第2期では、この部分につきましては、SDGsに紐づけて、推進していきたいと思っております。第1期では、結果が出なかった部分もありますが、今後につきましては、しっかりと検討を行い、再度取り組みを行っていきたく思っております。

《政策分野5「しごとの創出」について》

[事務局説明]

【尾間委員】

施策 No. 5－1 志摩市を元気にする創業支援事業についてですが、たまたまこの制度を利用された移住者3名の方の創業のお手伝いをさせていただきました。彼女たちの様子を見ていたときに、背中を押したのはこの制度であると実感しました。といいますのは、事業計画であるとか、これをそのまま続けていったら、何が必要であるとか、例えば数字を見ることだったり、そういうことに対しての知識についてなどをお手伝いさせていただいた際に、観光商工課の方の熱い思いもありまして、何とか創業させてあげたい、何とかこの制度を利用してあげたいといった3者が一体になって、実行して、起業までもっていくことができたんですが、やはり、この制度は良いと思いました。商売を起業して、それをどういったら続けていけるのか、そういうところを見てあげることができたので、彼女たちの夢が現実にできたのは、この制度のおかげだと思いますので、ぜひ続けていただきたいと思います。

【事務局】

この制度につきましては、今後もPRをしまして、しっかりと活用できるようにしていきたいと思っています。

【磯和委員】

施策 No. 5－5、6次産業化推進事業についてですが、私の住んでいる地域では、昔からきんこ作りが盛んに行われているのですが、ずっと言っていたのは、きんこというのは、自然食品ということで注目されて、生産さえすれば取り扱ってもらえるような状況だったのですが、現在は、阿児で盛んに行われています。この地域にマッチした産業であると思いますので、しっかりと進めていただきたい。

また、獣害対策については、市の助成金もあるとは思いますが、被害もたくさん出ていますので、力を入れていただいて、いろんな角度から支援をしていただけたらと思います。

農業の担い手の高齢化も進んでおり、獣害対策といった問題もある。こういった事業はぜひ続けていただきたい。

【事務局】

きんこは、人気が高い特産品であると認識しております。

担い手の高齢化、獣害対策等、様々な問題につきましては、担当課にも伝えまして、6次産業化を通じて産業の振興を図りたいと思います。

《政策分野6「まちの形成」について》

【井上委員】

施策 No. 6－7 子どもの医療費がかからないまちづくり事業について、小中学生の窓口無料化は実施してないかと思いますが、対象を拡大して実施はできないのですか。

【事務局】

窓口無料化についてですが、制度的なこともありますので、担当課へご意見を伝えさせていただ

きたいと思います。

事項書 2. 議事 (2) 第 1 期総合戦略の総括について

[事務局説明]

【岩崎会長】

第 2 期の総合戦略の評価も審議会ですべていただくことになるかと思いますが、第 2 期の評価のイメージも、第 1 期の総括のような形になるのでしょうか。

第 1 期につきましては、事業ごとに KPI を設定し、それに対して年度ごとにどれくらい達成できているのか評価してきていたと思います。第 2 期は、事業単位ではなく施策単位で、その中の基本となる事業や、あるいはその事業の進捗度となる適切な指標を KPI として設定して、事業単位ではなく、施策単位で戦略を取りまとめています。そして、各事業を総合計画から引っ張ってくるような形でまとめてあると思います。

事業単位でどれくらい実績が上がっていて、どこまで到達出来ているかという形で資料提供いただけると、今日、皆さんから大変建設的な意見をいただきましたし、いろいろ議論も盛り上がりましたように、こういう形で出てきますと何がどこまで進んでいるのかというようなことが見えにくくなる部分もあるのではないかと思います。

第 2 期に対してどのように評価していくといのうはご検討いただいている段階だと思っているのですが、皆さんからいろいろご意見をいただきやすいような評価の手法でご検討いただきたいと思います。

【事務局】

第 2 期につきましては、例えば「ひとの育成」という施策では、児童・生徒の地方創生参画推進事業や、県立高校の魅力向上事業といった事業が具体的な取り組みとしてあるわけですが、それぞれの細かい成果ではなく、「自分の住んでいる地域が好きという中学生の割合」など KPI として設定しまして、その事業をやったかやらないかではなく、地方創生に資したかどうかというところにポイントを置きまして、評価をしていきたいと思っております。

ただ、本日ご意見をいただきましたように、ぼやけてしまう部分もありますので、そこにつきましては、工夫をしながら、評価をいただく際にはお示しさせていただきたいと思っております。

【岩崎会長】

引き続き、よりよい評価の方法をご検討いただきたいと思います。

【事務局】

それではどうもありがとうございました。私どもの不手際で遅くなり申し訳なく思っている。もう少し議論があったかと思う。いろいろな意見もいただいたので報告させていただきたい。本日はありがとうございました。

以上